



金星を探してみよう

近ごろ、日の入りのすぐ後で、西の低い空に見え始めた金星について紹介します。

金星を肉眼で！望遠鏡で！見てみよう！！

4月下旬 午後6時30分ごろ

5月下旬 午後7時ごろ

当館の大型望遠鏡

で見た昼間の金星



この時期の一番星！

西の低い空

を探そう。

←金星



明け方、東の低い空に

見える時期もあるけれど、夜遅い時間は見えないよ。

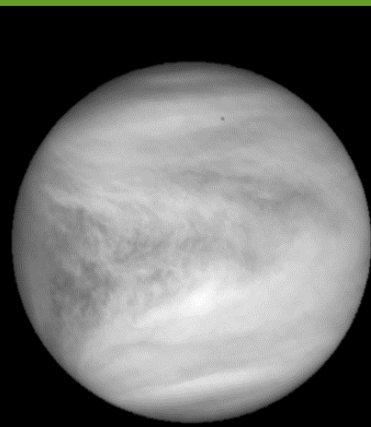


望遠鏡で見る金星は、太陽の光を反射して明るく輝き、月のように満ち欠けをします。これは、金星が地球の内側を回っているため、太陽と地球の位置関係によって見かけの形が変わります。月と地球の距離はそれほど変わりませんが、金星と地球の距離は大きく変わるので、見た目の大きさも変化します。

金星はどんな星？

金星は、太陽の周りを回る惑星の一つです。大きさや重さは地球とほぼ同じで地球のふたご星と呼ばれています。金星大気中の二酸化炭素による強い温室効果と上空をおおう厚い雲で、平均気温は470度と高温です。大気の上の方には「スーパーローテーション」という、秒速100mもの高速の風が吹いていますが、その理由は大きな謎です。

2015年12月に到着した日本の金星探査機「あかつき」は、金星の謎に挑むために、金星の周りを回りながら、大気をカメラで撮影したり、気温を調べたり、大気の流れや雷や火山活動を観測しています。



金星探査機「あかつき」が撮影した金星

©JAXA